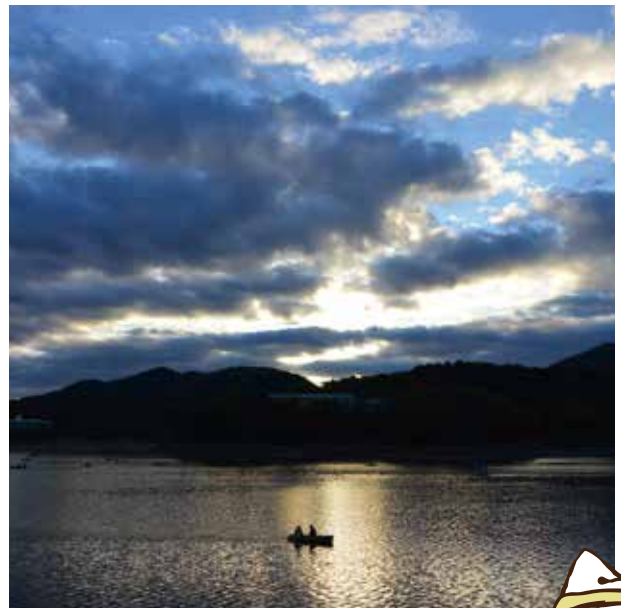
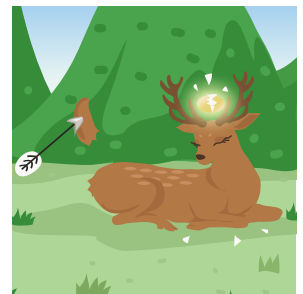


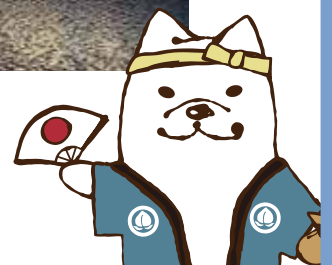
わたしのまちの **とっておき** 文化遺産！

犬山たび

物語の巻



犬山市文化遺産活用実行委員会



犬山たび物語の巻

目次

金明水・銀明水 白龍様の伝説	三
やろか水	五
吉野神社	六
入鹿切れ	七
入鹿池	九
山姥物語	十一
妙國山興禅寺	十三
田中天神の森	十四
継鹿尾観音	十五
継鹿尾観音 寂光院	十六
青龍山記	十七
青龍山瑞泉寺	十八
犬山市内地図	十九、二十
犬山に伝わるむかしはなし	二十一
引用・参考文献一覧・たびにオススメの資料	二十二

たびの案内人



く
く
久
久
ギ
ス
丸



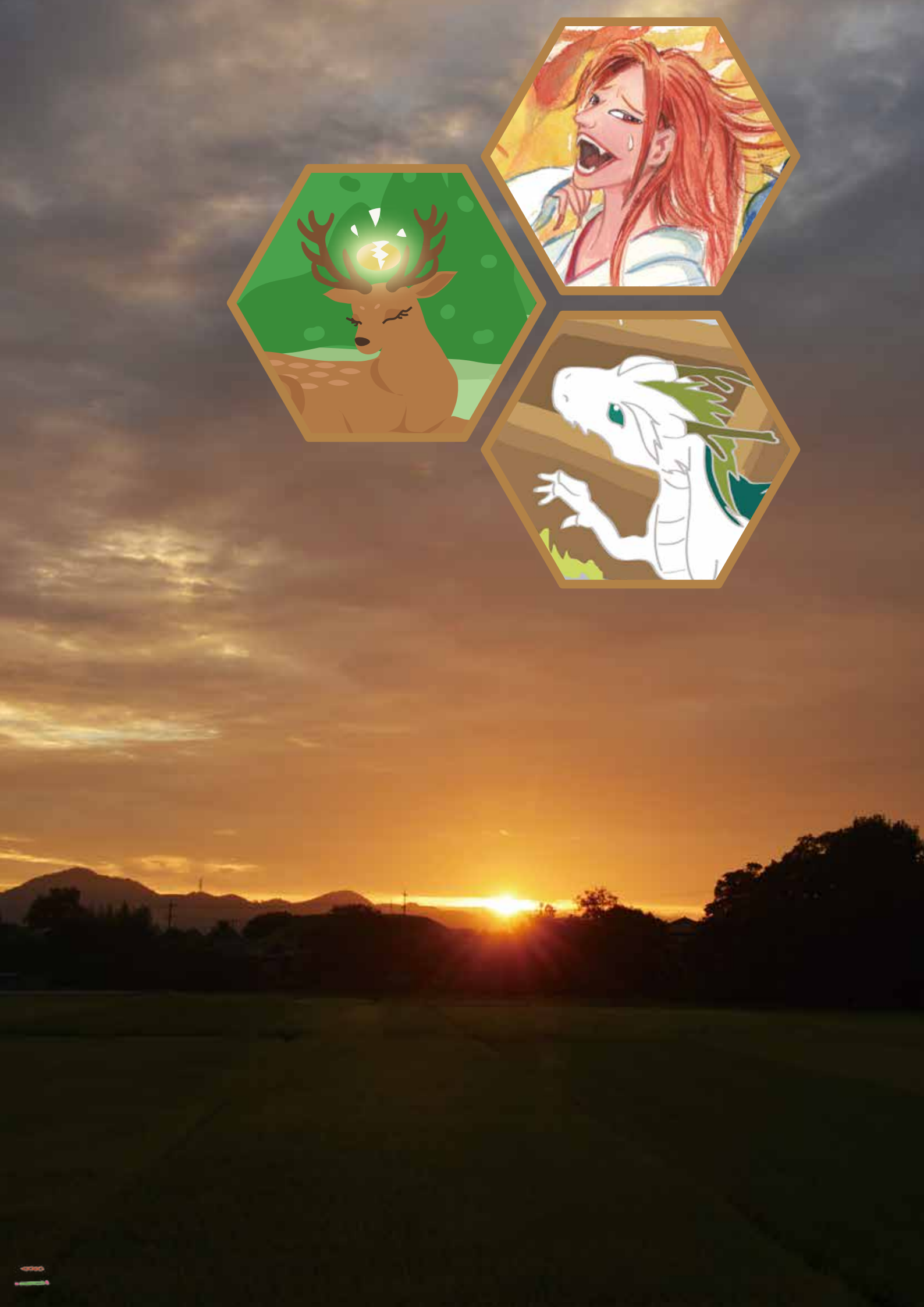
モモ次郎と仲良しの
雉。好きな食べ物はカ
レーライス。畑で採れ
た野菜を一杯入れた栄
養満点のカレーは絶品。

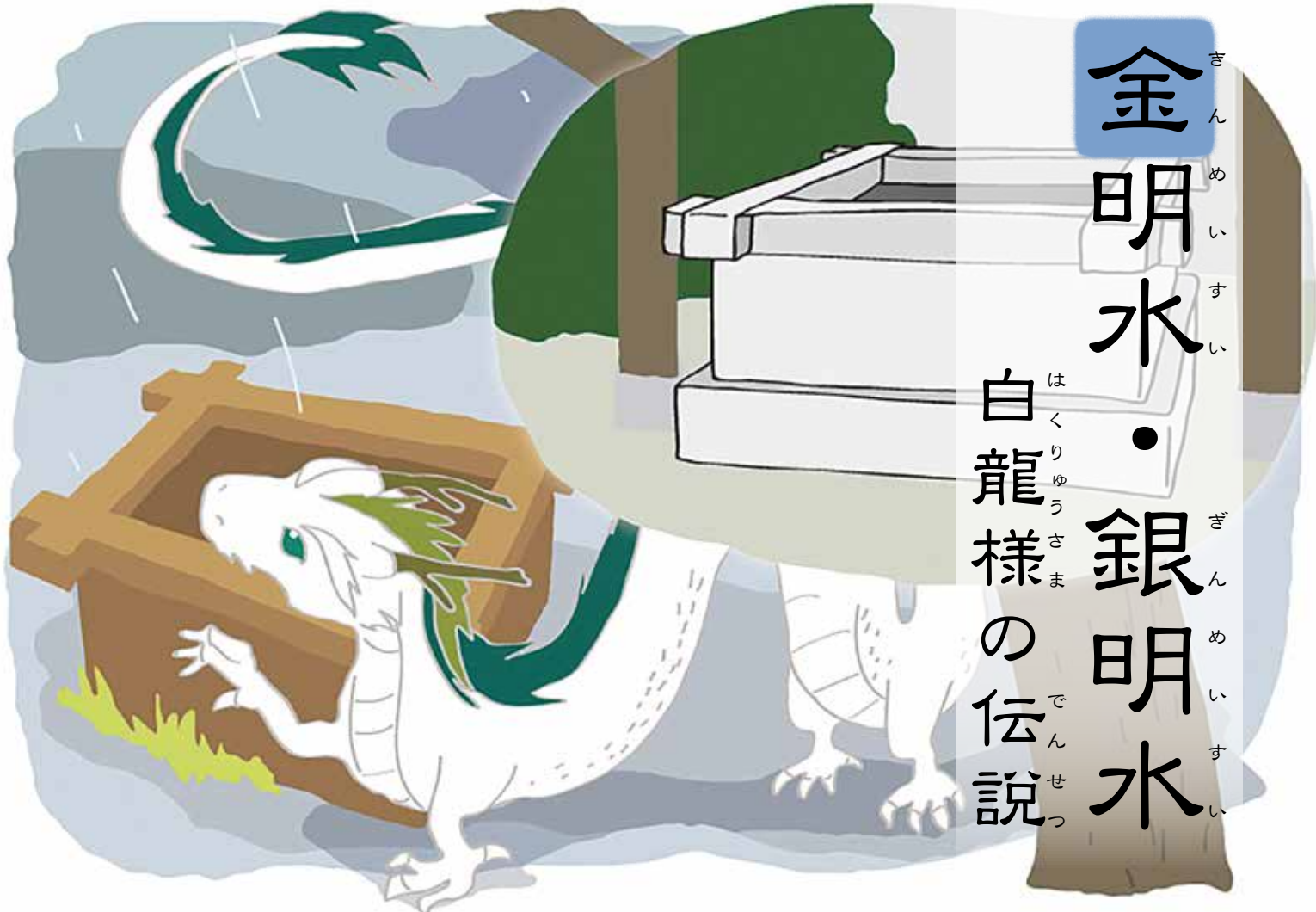


犬
山
モ
モ
次
郎

その昔、桃太郎と一緒に
鬼退治に出かけた勇敢なわ
んこ。犬山の「田楽」が大
好き。あつあつのうちに食
べるのが好き。お肉は苦手。







金明水・銀明水

白龍様の伝説



銀明水



金明水



枯れない井戸の昔話

木之下城には興味深い伝承が伝わっています。城内には「金明水」という井戸があり、どんな厳しい日照りでも水がかれたことのない井戸として知られています。白龍様をお祀りする金明水は、現在も愛宕神社境内に存在しています。また神社の西南100メートルほどの宅地の中に「銀明水」と呼ばれる井戸が残されています。なお、社殿がある高まりは3メートルほど。木之下城廃城のあとこの場所に長泉寺（延命院）というお寺が存在し、その跡地に現在の愛宕神社が建てられています。



愛宕神社 拝殿



愛宕神社 金明水



愛宕神社参道入口の木之下城跡碑



愛宕神社 狛犬

やろか水^{みず}

木曽川がもたらした
災害



災害史を伝える
昔話「やろか水」

犬山西地区は、北側に木曽川が流れており、川の自然の恩恵を受ける一方で、川による災害にも悩まされた地域でもありました。やろか水は、こうした木曽川による災害を物語る昔ばなしです。



「やろか水」の伝説

鵜飼町で門番をしている善助は、降り続く雨で木曽川の水かさが増えたせいで眠れない日をおくっていました。ある晩、空が晴れたので、不思議に思い川を見ると、突然上流の方から「やろか! やろか」というぞつとするような声が聴こえてきたので、善助は「よこさばよこせ」と言ったそうです。すると、みるみるうちに水がうずを巻いて押し寄せ、善助も町も水の底に沈んでしまいました。これが歴史に残る貞享4(1687)年の「貞享の大洪水」といわれています。

犬山城の南西、木曽川沿いに位置

する吉野神社の御祭神には、「やろか大神」という神様がいらつしやいます。この「やろか大神」は、まさに「やろか水」にまつわる神様で、貞享の大洪水の際、木曽川の川中から拾い上げられた木像をお祀りしたものであるとされます。木像は童子の姿をしており、雨乞いの靈験がある神様だということです。





吉野神社

よしのじんじや
やろか水関連



🔥 金刀比羅社石碑



雨乞いに靈驗あらたかな吉野神社

吉野神社にはやろか大神が祀られています。

やろか大神は貞享4年(1687)、木曾川の大洪水により流れてきた童子の御姿の木像が、雨乞いに靈驗あらたかとして廣國押建金日命と少彦名命の二柱と共に合祀されました。



🔥 吉野神社 標柱



🔥 水神石碑



🔥 山神石碑

入鹿切れ

天に昇った二匹の馬



悲劇の物語その経験

慶応4年（1868）。この年4月中ごろから降りはじめた雨は5月になってもやまず、入鹿池は堤防決壊の危機的状況となっていました。尾張藩は、必死の応急工事により決壊を防ごうとしましたが、5月14日午前、堤防はついに決壊。流れ出た濁流はたちまちにして周辺の村々を飲み込み、その被害は死者941人、負傷者1471人、流失家屋807戸を数えました。これがいわゆる「入鹿切れ」です。この入鹿切れにまつわる話が、「入鹿切れ 天にのぼった二匹の馬」のお話です。



守り神 「二匹の馬」の伝説

入鹿池周辺の村では、入鹿池を作った時に堤防である百軒堤が切れるのを防ぐために、左甚五郎という彫刻の名人に「馬の形をした彫物」を入鹿の主として作らせ、池に入れたと伝わっていました。

さてある年、大雨の日が続き、心配した村人が堤防の様子を見に行く、これは不思議。二匹の馬が、池



昔話、今の地

の水を勢いよく飲んでいきます。これで助かると思った村人達。しかし、その後も雨は容赦なく降り続き、池の水はどんどん水かさを増していきました。そしてある日、「ゴロゴロ、シューッ」と凄い音がしたと思うと大きな腹をした二匹の馬が、天高く昇っていくではありませんか。そしてそのとたん「ガガガー」入鹿池の堤が切れてしまったのです。

今は悠然と水を湛える入鹿池。しかし、そのような姿となるまでに、犬山地域の人々の長い苦労の歴史があったことを忘れてはいけません。



入鹿池



災害の記憶をとどめる記念碑

興禅寺に祀られる「入鹿切れ流石」はとても大きな岩です。この岩が洪水の時に興禅寺まで流れてきたと伝わっており、入鹿切れの恐ろしさを偲ばせます。また、最も被害が大きかった羽黒には「入鹿洪水溺死群霊塔」が建てられ、洪水の犠牲になった人々を悼んでいます。



入鹿切れ流石（興禅寺）



入鹿洪水溺死群霊塔（羽黒朝日）



入鹿池いるかいけ

入鹿切れ関連



入鹿池とその歴史

犬山市の南東域に位置する入鹿池は、貯水量約1万5千平方キロメートル、溜池の貯水量としては国内第1位の大きさを誇る人工の溜池です。池の南には「銚子口」と呼ばれる開口部があり、そこから流れ出る水は五条川となって犬山市をはじめとする周辺地域へと流れ出、多くの田畑を潤してきました。



池築造以前の歴史 池底の遺物は語る

入鹿池築造以前、この地はどのような場所であったのでしょうか。入鹿池の渇水時に、周辺からは旧石器時代や縄文時代のやじりなどが見つかっており、太古の時代からこの地に人が住んでいたと考えられています。また、奈良時代に書かれた歴史書「日本書紀」



▲入鹿池周辺で
見つかったやじり

に、安閑天皇2年（535）に、天皇の直轄地「入鹿屯倉」をこの地域周辺に設置したと記されていることから、入鹿池周辺の地域が当時、地理的・政治的に重要な場所であったことが窺われます。



入鹿六人衆

入鹿池が造られたのは江戸時代始め頃のことですが、この頃この地には、「入鹿村」という村がありました。入鹿村の村民は池の築造に際し、村ごと移転を余儀なくされました。この際、村内にあった多くの社寺も別の場所に移築されています。入鹿池の北西、城東の前原地区にある天道宮神明社には、入鹿村から移築した楼門が現在も残されており、当時の入鹿村の面影をひっそりと伝えています。



刀塚

入鹿池築造のきっかけとなったのは、江戸時代の新田開発です。入鹿池築造以前、入鹿池南西部に広がる高台の地域は水の便が非常に悪い場所でした。そこで、この地を農地として開拓するために、後に「入鹿六人衆」と呼ばれる周辺の村の有力者達が、銚子の口をせき止め、大きな溜池を造ることを計画しました。入鹿池六人衆とは、江崎善右衛門了也、落合親八郎宗親、鈴木作右衛門、鈴木久兵衛、丹羽又助、船橋七兵衛の六人です。この計画はのちに尾張藩の事業として実施されることにな



水神の碑

り、河川を堰き止めるため、長さ約百間（約180メートル）にもなる大規模な「百間堤」を設置する工事が行われました。巨大な堤を設置する工事は困難を極めました。寛永10年（1633）、入鹿池は完成となりました。



犬山、未曾有の水害 「入鹿切れ」の発生

しかし、完成から235年後の慶応4年（1868）5月13日、長雨の影響から入鹿池の堤が決壊し、死者941名を出す大災害を引き起こ

します。決壊によって池から流れ出た大量の濁流は、丹羽郡一帯の多くの村々を飲み込みました。この災害は「入鹿切れ」と呼ばれ、昔話や各地に残る慰霊碑などが悲劇の歴史を今に伝えています。

その後池堤防の改修も進んだ昭和



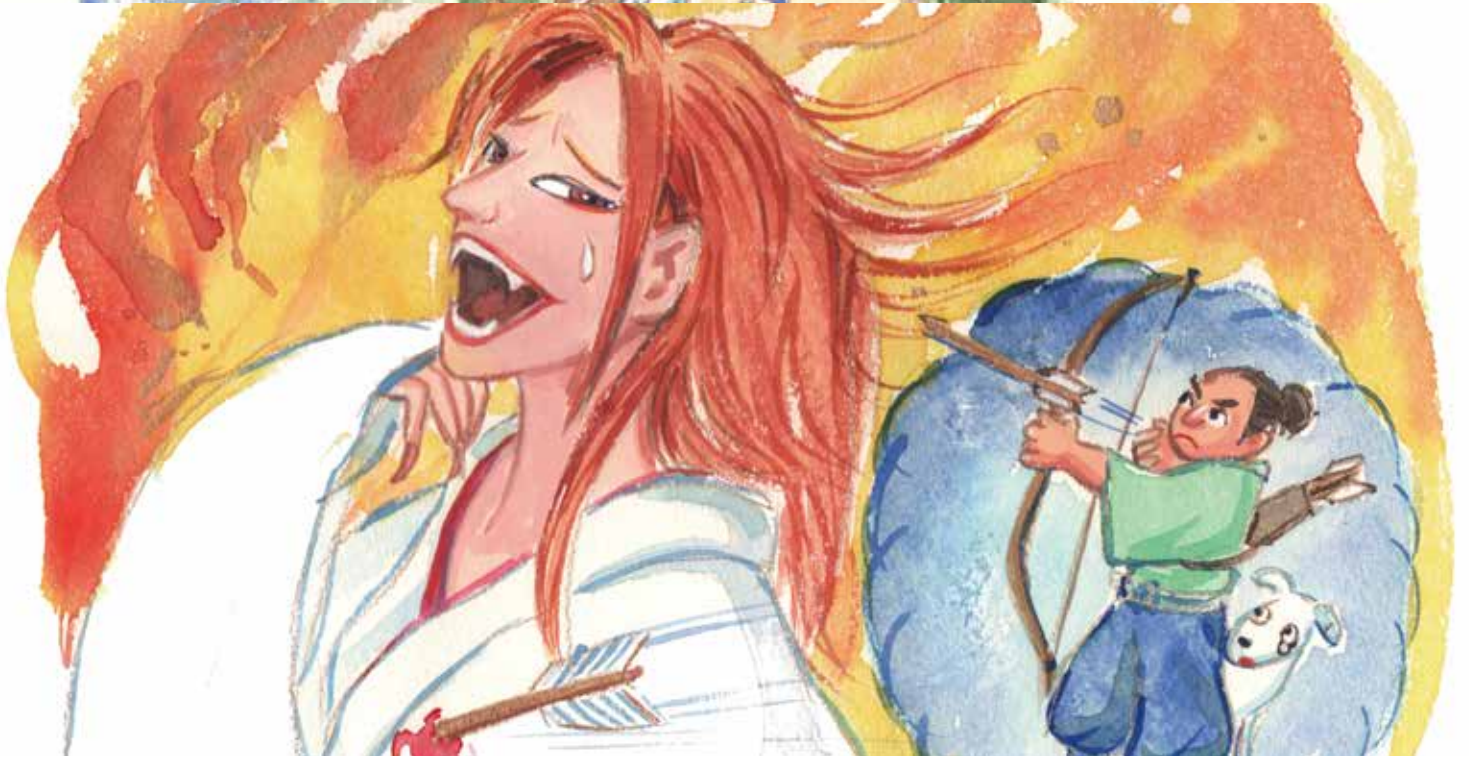
現在の入鹿池 昭和の観光地化

初期に入ると、当時の犬山観光ブームの影響で、入鹿池周辺でも観光地化が進められました。池周囲には展望台や貸別荘などが建てられ、多くの観光客で賑わっていたようです。その中の料理旅館「富士家」では昭和5、10年頃、入鹿池の西にある羽黒駅に立ち並ぶ芸者置屋から、きらびやかに装った芸者たちが尾張富士の峠を越えて富士家へ繰りだす光景が見られたそうです。「富士家」のあった場所には現在、博物館明治村が建てられています。



山姥物語

やま
まん
ば
もの
がたり



犬山の代表的昔話 「山姥物語」

「山姥物語」は、犬山に伝わる代表的な昔話です。尾張北部から美濃南部に至る広い範囲に伝承されています。

文久年間（1264～1275）の頃、羽黒村に福富新蔵という狩りの得意な野武士が住んでいました。ある夜新蔵が狩りに出かけると、本宮山の社で身の丈3メートル程の山姥をみつけました。危険を感じた新蔵が山姥に向かって弓を打つと、山は大荒れの嵐になりました。後日、新蔵が山姥の血の跡を追いかけると、本宮山の頂上から鞍が淵を通過して池野の安楽寺を通り、さらに羽黒の成海村を抜け青塚の近くを過ぎ、大口の余野にある新蔵の友人、小池与八郎の家まで続いています。家の中を調べると、与八郎の妻が山姥であることが分かりました。新蔵と与八郎が妻の姿を探すとすでになく、おびただしい血の跡と与八郎にあてた別れを惜しむ手紙だけが残されていました。二人は山姥の血の跡を追いましたが、行方はどうともわかりませんでした。



🌋 尾張富士から見る本宮山



🌋 山姥青黄姫龍王社



🌋 本宮山登山道の石仏たち



🌋 本宮山登山道の石仏たち



🌋 山姥青黄姫龍王社



🌋 本宮山山頂 大縣神社奥の院



昔話、今の地

さて、犬山で「山姥物語」が誕生した理由として考えられるのが、本宮山周辺の自然地形との関わりです。

山姥が始めに逃げた場所、尾張富士南麓付近や本宮山西側一帯は、鉄鉱石が多くとれる場所であり、赤錆色の岩や土が、地面に露出しているのが現在でも見られます。また、この地域は昔から土石流や河川の氾濫など自然災害が発生しやすい地域でした。一旦大雨が降ると赤錆が五条川に流れ込み、血のような赤色に染まった水が、人の住む低地へ氾濫したと思われれます。この赤錆の水が流れる方向が、物語中に示される山姥がつけた血の道筋と重なっているため、山姥の逃げた道は、河川の氾濫等の自然現象を暗示するものであると考えられるのです。昔から伝わる物語には、後の世の人への教訓が含まれていることが多いですが、犬山に伝わる「山姥物語」も、古来の人々が自然災害に苦しめられてきた事実を、忘れてはいけない「畏怖の警鐘」として、後世の人々に伝えたかったのではないのでしょうか。



▲赤く染まった水
(撮影：鞍が淵)





妙國山興禪寺

山姥物語関連



山姥物語と梶原七家臣

山姥物語は尾張北部から美濃地方に様々な形で伝わっていた物語ですが、安永6年（1777）胡廬坊臥雲こうぼうがうんにより「山姥物語実記」（以下「実記」として編纂されました。「実記」によれば、「山姥物語」の主人公福富新蔵は、駿河国から落ちのびてきた梶原一族の七家臣の一人である福富万蔵国秀の末裔にあたります。

また、民話「山姥物語」は山姥が姿を消したところで終わりますが、「実記」によれば新蔵はその後剃髪をして「両福坊」と改名し、羽黒に庵を建てて余生を送ったそうです。新蔵の墓は羽黒の高橋共同墓地にあります。



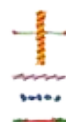
興禪寺本堂



梶原景時公石碑



梶原一族の墓



田中天神の森

たなかてんじんのもり



田中天神 社



水の被害から逃げ出した住民たち

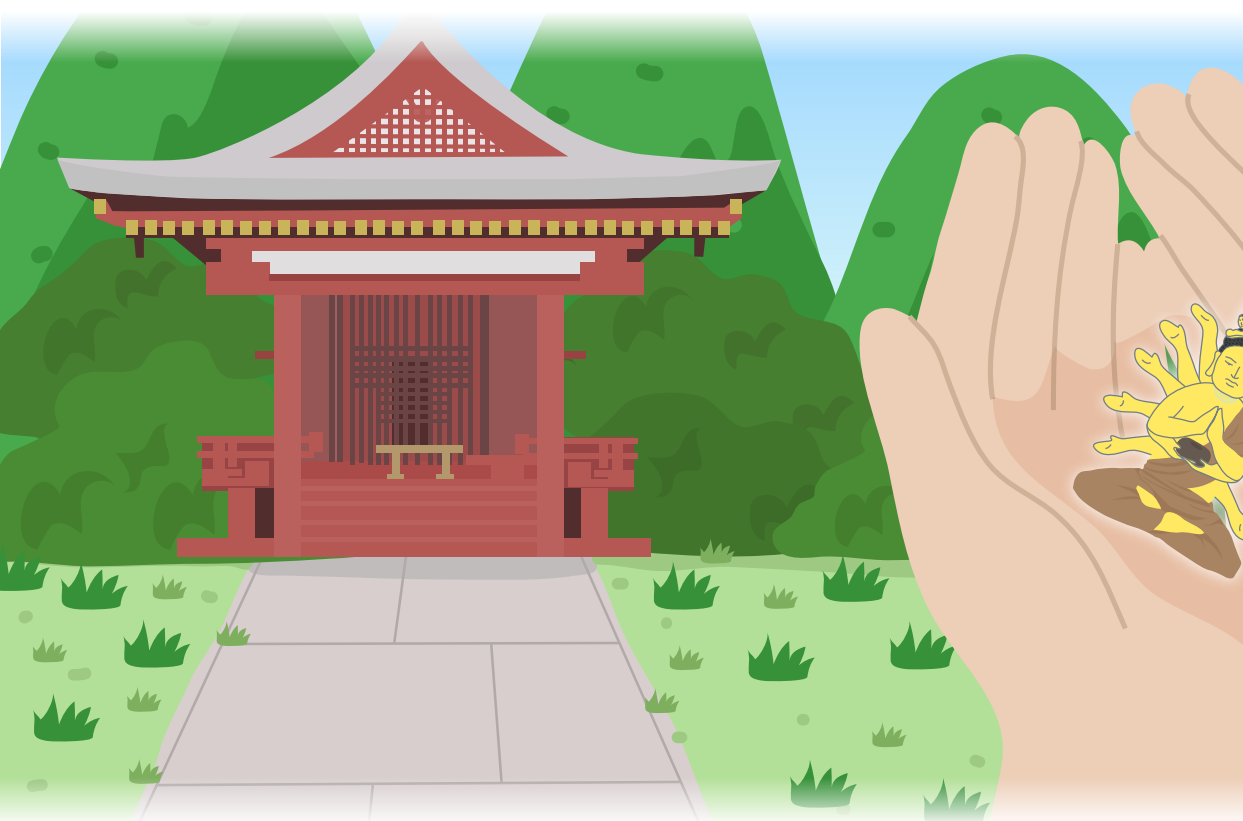
田中天神は犬山市天神町に祀られていました。この地は大昔から人が住み、天神町はもとより近隣の富岡の一部まで開墾していました。しかし、天神川と青木川の合流地にあたるため、住民はたびたび氾濫に悩まされてきました。氾濫の被害に耐えかねて、やがて住民は富岡、木ノ下、余坂、外町等へ移住していきました。移住後も田中天神は鎮座していましたが、明和4年（1767）参詣の便が悪いため余坂へ遷座しました。



継鹿尾観音



寂光院に伝わる観音様の縁起



継鹿尾観音の由来

継鹿尾観音は寂光院の奥の山の中ほどにあります。昔、狩りを仕事とする「増彦」という男が、一匹の光る玉を頭にのせた鹿を見つけました。不思議に思いおかみさんに話をしたら、天からの授かりものに違いないから是非射止めてくるように言われました。

次の日山へ出かけた増彦は、見つけた鹿に狙いを定めて矢を放ちました。しかし矢は尻尾に当たり、頭の玉も飛び散りました。ところが不思議な事に尻尾は元に戻り、鹿は何事もなく立ったように立ち去りました。

鹿の立ち去った岩の上に、身の丈1寸8分の千手観音が残されていました。増彦はこれも何かのお導きと社をたて、観音像を祀ったという事です。





継鹿尾観音寂光院

継鹿尾観音
関連



青もみじの寂光院



秋の寂光院



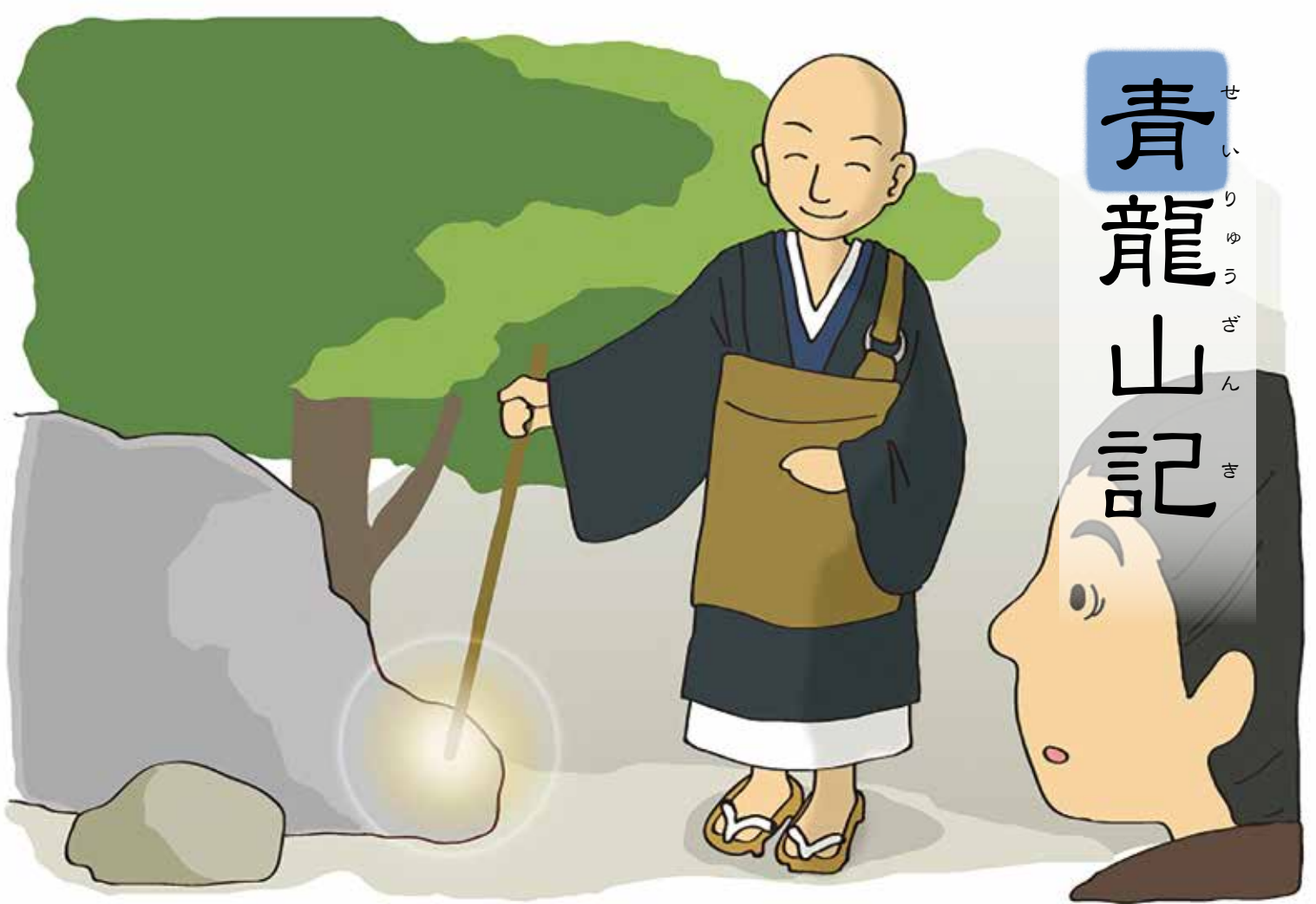
別名「尾張のもみじ寺」寂光院

寂光院は白雉5年（654）、孝徳天皇の勅願により道昭和尙が七堂伽藍を建立されたのが始まりとされます。以来、千手観音菩薩を中心とする霊山として信仰を集めてきました。

境内には約1000本のもみじがあり、特に巨木が多くて、葉が細かく色鮮やかに染まるので見応えも十分です。また、秋の紅葉に劣らず、4月中旬～5月上旬の新緑・若葉の頃は実に爽やかで鮮やかです。今では秋のもみじに対して、「青もみじ」と称し、この時季に訪れる人も増えています。

青龍山記

せいりゅうざんき



瑞泉寺境内



瑞泉寺、縁の昔話

瑞泉寺は、名鉄犬山遊園駅のすぐ南東にある白山平山麓に位置している臨済宗妙心寺派の古刹です。山号を青龍山といい、日峰宗舜^{にっぽうそうしゆんぜんじ}禅師によって開創されました。この瑞泉寺の山号である青龍山の名前の由来にまつわるお話です。



昔話「青龍山記」

むかし、継鹿尾山の奥で修業をしているお坊さんがおり、村人の病気を治したり、争いごとを仲介したりと助けておりました。村人たちはそのお礼にと、お坊さんのために寺を建てようとなりました。お坊さんが「ならば、ここへ」と言って、岩の角を杖で叩くと、山全体がうなり、岩が割れて水が噴き出し、青い龍が天めがけて昇って行ったそうです。こうして、お寺の名前は青龍山瑞泉寺となったそうです。





青龍山瑞泉寺
せいりゅうざんずいせんじ

青龍山記関連



瑞泉寺山門



托鉢に向かう瑞泉寺の僧侶

犬山市内

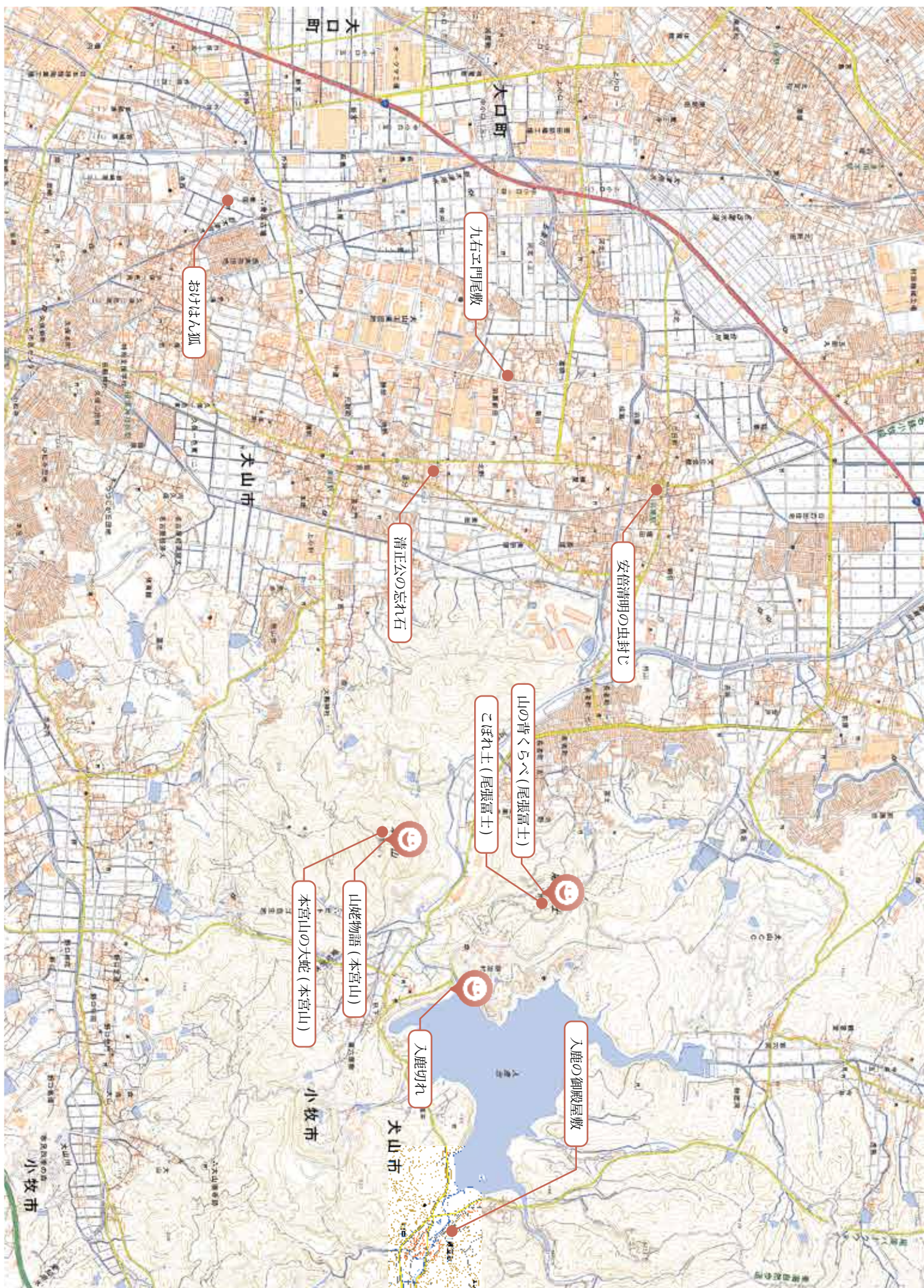


コッパを持つて、
文化遺産に出会う旅に出発！

- | | | | |
|--|----------|--|------|
| | 遺跡
史跡 | | 建築物 |
| | 祭り | | 交通 |
| | 自然
景観 | | おすすめ |

0 2 (km)
(縮尺：1/35,000)
(地理院地図電子国土 Web を加工して作成)





犬山たび 物語の巻



犬山に伝わるむかしばなし

タイトル	場所	お話の紹介
こぼれ土	池野	その昔、日本をお創りになっていた神様が富士山を造ろうとされた時のことです・・・。
山の背くらべ	池野	尾張富士と本宮山が「背くらべ」をしました。負けた尾張富士は何とか背を高くしようと・・・。
九右エ門屋敷	羽黒	長者夫婦の一人娘は生まれつき物をいうことができません。娘は屋敷の前に倒れていた若者に恋をしてしまいます・・・。
清正公の忘れ石	楽田	お城造りの名人、加藤清正公が稲置街道を歩いて名古屋へ石を運びます。その途中で大きな石が田んぼへ転がり・・・。
おけはん狐	青塚	お百姓さんの馬が欲しくなった「おけはん狐」は美しい人間に変身してお百姓さんを化かそうとしましたが・・・。
安倍清明の虫封じ	羽黒	京の安倍清明が善師野に住む友人を訪ねた折、羽黒で宿を取りました。その宿で食べた食事には・・・。
入鹿の御殿屋敷	池野	入鹿の里には広々とした水田が早くから開かれておりました。豊かな土地は天皇の屯倉となり・・・。
しるしの榎	橋爪	野武士が下男のを待ちわびていますが、下男はなかなか現れません。怪しんだ野武士が辺りを探すと・・・。
本宮山の大蛇	池野	入鹿村があった頃のお話です。ある秋の夕暮れに若者が馬を引いていると、美しい女の人に呼びとめられ・・・。
僧の御影	内田	どこからやって来たお坊さんが村人に教を伝えています。村人から慕われていたお坊さんですが、旅立つことになり・・・。
犬山の天狗	西園師	専念寺には、天狗が休憩する大きな松の大木がありました。ある日日光に行く途中の鞍馬天狗が休んでいると・・・。
豆腐争い	内田	瑞泉寺に千里眼を持つというお坊さんがおりました。ある日夫婦がお供えの豆腐を持って寺に行くと・・・。
夜中の瓢箪	鍛冶屋町	鍛冶屋町に住む包重は丹羽町の宮助の家を訪ねます。宮助の家に宿泊した包重が夜目にしたのは・・・。
勘五郎火	橋爪	勘五郎は日照りの際に田に入れる水を盗んでしまいます。その罪で殺された勘五郎を探して母親は毎日探し回り・・・。
甘茶長右エ門	余坂	提灯屋の長右エ門は変わり者で知られていました。ある日通りがかりの農家で立派な柿を見つけた長右エ門は・・・。

(『犬山のむかしばなし』『犬山のむかしばなし 第2集』から抜粋)



引用・参考文献一覧（全巻共通）

愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし』 犬山市役所 1983
愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし 第2集』 犬山市役所 1987
愛知県犬山市役所 『犬山ものがたり』 犬山市役所 2004
愛知県教育委員会 『中世城跡調査報告書Ⅰ』 愛知県教育委員会 1991
愛知県史蹟名勝天然記念物調査会 『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告 第10 史蹟其八 名勝其四 天然記念物其十』 愛知県 1927
愛知県史編さん委員会 『愛知県史 資料編4 考古4』 愛知県 2010
愛知県史編さん委員会 『愛知県史 別編 自然』 愛知県 2010
犬山市エコアップリーダー 『犬山の巨樹・古木50選』 巨樹巨木調査グループ 2004
犬山市教育委員会 『犬山市の文化財』 犬山市教育委員会 1993
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 史料編3 考古 古代・中世』 犬山市 1983
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 別巻文化財・民俗』 犬山市 1985
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 通史編上』 犬山市 1997
犬山市教育委員会 『全市博物館構想 市民が創る生涯学習のまち』 犬山市教育委員会 2002
犬山市教育委員会 『犬山城総合調査報告書』 犬山市教育委員会 2017
犬山城白帝文庫歴史文化館 『図説 犬山城』 公益財団法人犬山城白帝文庫 2014
木曾川学研究協議会 『木曾川とともに歩んだ各務原 犬山 岐南 笠松』 木曾川学研究協議会 2010
佐藤重造・横山住雄 『各務原の歴史散歩』 石亀神社 1986
横山住雄 『犬山の歴史散歩』 1991



たびにオススメの資料

犬山城下町について

『犬山城下町マップ』犬山城下町の詳細マップ。犬山祭を見学する際は、携帯していると便利です。犬山観光案内所などで配布。

文化遺産カードについて：文中に、herica マークがついているものは、「文化遺産カード」がある文化遺産です。文化遺産を訪れてカードをたくさん集めましょう！

・「入鹿池」... 配布場所：青塚古墳ガイダンス施設 ※詳細は下記をご参照ください。

文化遺産を訪れて、カードを集めよう！

文化遺産カード

HP(<http://herica.net>)

文化遺産カードの楽しみかた



スマートフォンで文化遺産や史跡めぐり 犬山たび

リストモード

マップモード

文化遺産ナビとは、スマートフォンで利用できる犬山の文化遺産ナビシステムアプリです。どこにどんな文化遺産があるのか、またどんな方法で訪れればいいのか、簡単に調べる事ができます。

犬山の最新情報を HP でチェック！ 犬山文化遺産ナビ

Pick Up

「犬山文化遺産ナビ」とは、犬山の文化遺産や史跡に関する情報を、スマートフォンで簡単に調べられるアプリです。犬山の魅力がわかるモデルコースや、見どころスポットをお伝えします。また、犬山市に伝わる物語もアニメでお楽しみいただけます。

Course

コース

Spot

スポット

Story

犬山市に伝わる物語

「犬山文化遺産ナビとは」

犬山市は愛知県の北西部にある豊かな自然や多くの文化遺産が残る地域です。犬山文化遺産ナビでは、犬山の魅力がわかるモデルコースや、見どころスポットをお伝えします。また、犬山市に伝わる物語もアニメでお楽しみいただけます。

犬山たび 「物語の巻」

発行年

平成 31 年 3 月 22 日

発行

犬山市文化遺産活用実行委員会（犬山市教育委員会）

〒484-8501

愛知県犬山市大字犬山字東畑 36 犬山市役所

企画・編集

ナカシャクリエイト株式会社

〒468-8533 名古屋市天白区井の森町 205 番地

【編集協力】特定非営利活動法人

古代遼波の里・文化遺産ネットワーク

【写真協力】中野耕司

※本書の内容、テキスト、画像の無断転載、無断転用を禁止します。

犬山たび 全 6 巻

「祭の巻」「街道の巻」「城・古戦場の巻」

「古墳の巻」「物語の巻」「産業の巻」



犬山たび